



採鉱

14
まいん

かんきこう
歓喜坑
かんとうこう
歓東坑



復元された歓喜坑

坑口のことを間符ともいう

かんきこう
歓喜坑は、
別子銅山発祥の記念す
べき最初の坑道です。

元禄3年(1690)、坑
夫長兵衛(俗称 切上
り長兵衛)により、嶺南
に有望な露頭が発見さ
れました。

ここから
すべてがはじまった

露頭とは、鉱床の一部が地上に露出しているところをいいます。

長兵衛は備中国(岡山県)の吉岡銅山(住友経営)の支配人だった田向重右衛門に知らせました。田向たちはすぐさま険しい山中を調査し、苦心の末この付近で露頭を発見しました。そして、試掘を行ったところ、有望な鉱床であることを確認し、一行が大喜びしたことに由来し、歓喜坑と名付けられました。

翌年の元禄4年5月9日に幕府の許可を得て、同年9月22日に採鉱を開始しました。

歓喜坑の前には鋪方役所(採鉱事務所)がありました。

かんとうこう
歓東坑は、歓喜坑に次ぐ古い坑口です。

別子銅山は、開坑以来この二つの坑口を中心に別子本鋪(別子銅山の中心地)を形成しました。

江戸時代を通じて坑夫はここから入坑し、鉱石もほとんどすべてをここから運び出しました。

歓喜坑の坑口には鉱石でつくられたお地藏様(地藏菩薩鉱石立像)が祀られ、坑夫は入坑の際、安全を願い線香を供えていました。その煙のため、お地藏様は真っ黒になっています。



このお地藏様は、現在、南光院(南光院本坊圓通寺)に安置されています。お地藏様は通称、鉱石地藏とも呼ばれています。

両坑口は、平成13年(2001)10月31日に、開坑当時に近い姿に復元されました。

これな～んだ?

岩場に彫られたこの見事なまでの四角い穴、これは何の穴でしょう?
(ヒント・坑道)

答えは、裏にあります。

